

(別紙様式1)

平成26年度学校評価実施計画

学校名	大分県立日田支援学校
-----	------------

前年度評価結果の概要	<p>○重点目標1 ニーズを基にした個に応じた学習活動に対する取り組みはアンケート評価3.5であり当初の目標は達成できた。</p> <p>○重点目標2 職員全員による職場開拓、第三者機関を交えた進路会議、進路研修の増等新たな取り組みを行い成果があった。</p> <p>○重点目標3 地域自治体、関係機関との協力体制が前年度までに比べ向上した。</p>	<p>●児童生徒一人一人に対応する指導内容の設定、指導計画の作成に向け取り組む。評価については数値化を含めよりわかりやすいものへと改善する。</p> <p>●研究の成果・課題を保護者・関係機関へ提示し学校外での協力も視野に入れた取り組みとする。</p> <p>●保護者への情報発信の方法や小中学部保護者の進路研修参加に向けた一層の取り組みが必要。</p> <p>●今後も取り組みを継続し、さらに開かれた学校を目指していく。</p>
------------	---	---

学校教育目標	中期目標	重点目標
児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、その可能性を最大限に高め、心豊かでたくましく、みんなとともに自分らしく生きる力を養い、自立と社会参加を目指す人間を育成する。	1. 小学部・中学部・高等部の12年間一貫した芯の通った教育実践 2. 児童生徒が安全で安心して学べる学校としての危機管理体制の維持・改善 3. 特別支援教育の推進・充実に向け、地域におけるセンター的機能の発揮及び強化 4. 障がいの重度・重複化、多様化に対応できる専門性の確保	子どもたちが明るく元気にあいさつできる 1. 授業改善・事業改善(行事)に繋がる専門性の向上 2. キャリア発達を意識したキャリア教育の効果的実践 3. 保護者・地域・関連機関との協育・協働

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	具体目標・達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL
1. 授業改善・事業改善(行事)に繋がる専門性の向上	○計画的な研修を行うと共に、児童生徒のニーズを的確に把握した授業改善 ※年度末の保護者アンケートにおける授業満足度に関する評価の平均3.7以上	(1)〔個別的教育支援計画→個別の指導計画(12年間を見通した教育課程ベース)→授業プランニング→授業→授業検証・改善〕のサイクルの徹底、通知表評価の図示化・数値化(視覚化)	○学部内で「児童生徒・保護者のニーズ」(個別的教育支援計画記載)を共通理解する場を各学期初めに設定し、個別の指導計画に反映させ互見授業により成果と課題を検証する。 ○各単元具体的な目標を設定し、目標ごとに達成度を◎○△×を表記し、文章評価で補う。	PL: 教務 SL: 研究
		(2) 研修の見直し、意欲的且つ意識的(計画的)研修の推進、研修成果の共有	○学部を超えた教師間の連携を図るために、授業研究を各学部1回、年間3回行う。 ○夏季・冬季休業中に自作教材教具の展示およびデータ化し、ひとり1教材教具作成を行う。 ○学部研究報告会を年2回行う。 ○県内外研修出張環流報告を研修から1ヶ月以内に、全体の会議の中で行い、成果を共有する。	PL: 研究 SL: 小中高
		(3) 児童生徒の発達段階・ニーズに応じた目標設定による授業実践 ・ICT機器、授業環境設定等、個に応じた授業実施	○「互見授業の成果と課題」「単元ごとの目標達成の評価」を授業改善に生かすため、学部で共通理解する会議を各学期末年3回行う。 ○学期に1回、年間3回の学部間参観を行う。学部間参観において、授業目標設定や内容、教材教具、環境設定、教師の働きかけを視点に参加者が授業者をチェックする相互参観を行う。	PL: 研究 SL: 小中高
2. キャリア発達を意識したキャリア教育の効果的実践	○児童生徒の卒業時の適性に応じた進路を達成 ※達成率100% ○PTAの進路研修や進路部の進路学習会への保護者参加 ※保護者の参加10割	(1) キャリア発達・キャリア支援のための教育課程の編成	○特別支援学校指導力向上事業を活用して、講師を招き、特別支援教育におけるキャリア教育について研修会を2回行う。 ○児童生徒の卒業後の姿(長期教育目標)実現のため、指導内容段階表を作成し、活用する。	PL: 教務 SL: 進路・生徒指導・保健
		(2) 小・中学部に力点を置いた12年間を見通した一貫性のあるキャリア教育の実践、	○全児童生徒について「児童生徒・保護者のニーズ」「卒業後の姿」「現在の重点指導内容」を学校全体で共通理解を図るケース会議を各長期休業中に行う。 ○PTAや進路の研修会については、参加しやすい時間帯、小中高それぞれの学部保護者の関心の高いテーマを設定し、年間計画を5月中に配布する。	PL: 教務 SL: 進路
		(3) 全職員、保護者、地域の協働による実習先開拓や職場開拓を通じた就労支援	○小、中、高の全職員による実習先開拓・職場開拓を毎年夏期休業中に行う。 ○PTA時・各行事の際に保護者にも情報提供を求め、関係機関と連携し、開拓を進めていく。 ○就労支援アドバイザーを有効活用し、就労可能な新規業種・企業を10社以上開拓する。	PL: 進路 SL: 小中高
3. 保護者・地域・関連機関との協育・協働	○関連機関と連携しながら、保護者・地域・交流先等に向けた研修実施 ※月1回の実施 ○地域の専門家や関連機関による校内研修や、児童生徒と地域との交流活動を充実 ※保護者の学校行事参加率80% 児童生徒の挨拶率100%	(1) 学校行事への積極的参加の推進、教育活動へのさらなる参画機会提供	○年2回程度、保護者・地域・関係機関を対象に行事を主としたオープンスクール(学校公開)を実施する。また授業公開、研究授業を地域学校に周知し、専門教育の機会を提供する。 ○学習発表会、運動会で保護者に係を担当してもらうと共に、学習発表会では、関連機関や保護者を対象にした展示スペースを設け、出品を呼びかける。児童生徒と保護者の合同の種目を設ける。	PL: 特別活動 SL: 進路
		(2) 特別支援教育のセンター的機能の充実・発揮	○年度当初の地域の小・中学校等のコーディネーター部会で、本校のセンター的役割や昨年度の相談実績について説明し、周知をはかることで、相談体制を整える。 ○巡回相談、関係機関との会議、相談会について、ラポール部の全職員が最低1回ずつは参加し、研修することで、それぞれの力量を高め、センター的機能を充実させる。 ○本校職員向けアセスメント研修(事例研究等)を夏季休業中を中心に1回以上行う。	PL: ラポール SL: 研究
		(3) 地域の学校との「交流及び共同学習」、地域との交流活動の推進	○各学部で年3回、学校間交流または地域交流を実施し、交流の機会を確保し充実させる。 ○地域の方に障がい者(児)の理解を深めてもらうため、年に2回(1学期と2学期)学校周辺の清掃活動を学部毎に児童生徒の実態に応じて取り組む。	PL: ラポール SL: 進路